

# 魅どころ満載!!



## 呼び覚ます 熱い想い 武豊の礎を めぐる旅

当地域は、明治初頭までは、長尾村・大足村・富貴村・市原村・東大高村の5つの村がありました。明治11年、長尾村と大足村が合併する際、長尾の氏神「武雄神社」と大足の氏神「豊石神社」の両社の頭文字を合わせて、「武豊」と名付けられました。その後、昭和29年現在の武豊町が誕生しました。



### 武雄神社

鎮座年月日の詳細は不明ですが、近辺の遺跡や地名より奈良時代あるいはそれ以前に創建されたものと言われています。承久の変の後、京都より岩田氏が代官として当地に出向き館を構え、長尾城を構築し、このお宮さんを「城内並びに領内総鎮護の御社」と定めたとされています。又、長尾七宮社と称し、近隣の神社も合わせて祀られるなど、多くの摂社と広大な境内、又とても立派な社殿を有する大社です。昭和30年には、知多半島では随一の社格である愛知県社庁指定の四級社となり、名実共に県下でも代表神社の一つとなりました。毎年春には、御氏子各区より山車が6輛奉納され、盛大に例祭が執り行われます。知多半島で山車が6輛も奉納されるお宮さんは他にはなく、その勇壮さは、その名を馳せています。



■住所:武豊町字上ヶ8番地 ■TEL:72-0631



### 知里付神社

社宝の「あけすの箱」は、浦島太郎が竜宮城から帰郷するとき乙姫から贈られたもので、滅多なことでは開けられません。古老によると、明治時代の干ばつの年、宮司がこの箱を浦之島の沖に舟で運び出し、祈禱を捧げ箱の蓋を払うと、遙か彼方に雨雲が浮かび大雨が降ったそうです。また、境内には、浦島太郎を敬い、里人が祀った「浦島社」があります。



### クスノキ群 (町指定文化財)八幡社

八幡社のクスノキ群は、推定樹齢約300年の巨木3本を中心に境内に自生したものです。玉垣外南西角のクスノキには、周囲が4mもある大きなコブがあります。



### 豊石神社

創立の年代はあきらかではないが、中古、現在の熱田神宮の大神を勧請した古社と伝えられています。かつては、社名を八剣宮とか八剣大明神と呼ばれていた時代もありました。境内社として神明社、津島社、若宮社、八幡社、熊野社、白山社、金比羅社、秋葉社の八社が祀られています。7月の例祭は蛇車祭と呼ばれ現在も非常に注目されています。この祭礼の山車には口から花火をはきだす龍頭をかがげ、手筒花火を打ち上げるといこの地方ではめずらしい夏祭りです。なお、「尾張名所図会」にも記されており、龍の霊をなぐさめ、雨乞いの祭りとして、盛大な夏まつりの情景がしのべれます。

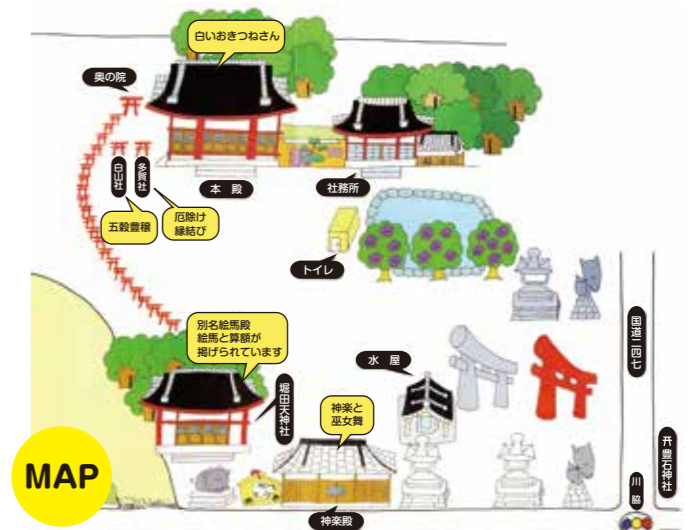
■住所:武豊町字明神戸60番地



### 堀田稲荷神社

堀田稲荷神社の境内の入口には朱色の鳥居ときつね像があり、境内社の天神社に「算額」が奉納されています。算額は、和算家が自己の発見した数学の問題や解法を書いて神社などに奉納した絵馬です。自分の技量の修得を神仏に感謝したり、自分の一門の宣伝のため、奉納されていました。この算額は、1810年(文化7年)12月に布土村(現美浜町)の稲生氏が奉納したものです。

■住所:武豊町字川脇6番地 ■TEL:73-4818



算額(県指定文化財)



### 円観寺・白山社

戦国時代、富貴地区を守る砦として現在の白山社と円観寺の境内に富貴城がありました。白山社の南方にある小桜稲荷に葬られた姫が、富貴城の堀端で討たれた恋人に会うため人魂になって、ここに向かったという伝説があります。



### ウバメガシ (町指定文化財)教福寺

この老樹(樹高7m、根囲5.3m、胸高囲2.2m)は、この地に教福寺が創建される以前の樹齢約1,000年と推測されています。



### 竜宮神社

825年(天長2年)7月、浦島太郎が竜宮城から帰ったのち、ありし日の竜宮を偲んで建立したと伝えられています。村人の信仰も篤く、昭和34年の伊勢湾台風による海水浴場閉鎖まで毎年旧暦7月16日は、この社の前の砂浜で村の娘たち総出の浦島音頭による竜宮踊りが奉納されていました。



### 真楽寺

四国直傳弘法第二十九番 建立:1570年(元龜元年)。境内に、「浦島太郎伝説」の亀のお墓があります。